

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	スマートIC整備事業	会計名称	一般会計		担当課	土木管理課	
		予算科目	8 款 2 項 4 目	事業番号	3581	所属長名	武智年哉
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	福井剛志	
法令根拠等	高速自動車国道法、スマートインターチェンジ整備事業制度実施要綱				実施期間	【開始】	平成 26 年度
総合計画での位置付け	快適空間都市の創造 人に優しい道路・交通体系づくり					【終了】	平成 31 年度(予定) <input type="checkbox"/> 設定なし
総合計画における本事業の役割	本事業は総合計画において、快適空間都市の創造（人に優しい道路・交通体系づくり）に位置付けられており、本事業の推進により、産業や市民の交流・連携の強化に寄与するものである。						
事業の対象	地域住民及び関係機関		事業の目的		過疎化、少子高齢化が急速に進行する中山地域にスマートインターチェンジを設置し、交通の利便性の向上、災害時における救援救護ルートの確保、救急医療機能の充実・向上を図ることにより、地域の振興・活性化に資する。		
事業の内容 (整備内容)	中山スマートICを整備するとともに、併せてスマートICに連結する市道日尾野引坂線の拡幅改良を実施する。		昨年度の課題に対する具体的な改善策		各区間で事業主体が異なることから、定期的に協議の場を設け意思疎通を図りながら事業進捗に努めた。また、工事について、NEXCO発注工事の残土搬出場所の選定など懸念事項が発生したが、関係機関との協議により解決するなど、次年度供用に向けて事業を推進している。		

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)									
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	29 年度実績	30 年度予定	9月末の実績	30 年度実績				
直接事業費	223,776	381,674	0	0	131,523	236,720	スマートIC工事費	千円	31207	214062	0	113460				
財源内訳																
国庫支出金	119,315	196,801	2,200	0	73,159	125,842										
県支出金		0	0	0	0	0										
地方債	87,800	161,300	△ 2,200	0	57,300	101,800										
その他		0	0	0	0	0	市道日尾野引坂線工事費	千円	89323	152140	22850	103901				
一般財源	16,661	23,573	0	0	1,064	9,078										
職員の人工(にんく)数	3.70	2.60				2.60	用地費及び補償費	千円	81058	10606	6714	10606				
1人工当たりの人件費単価	8,017	7,982				7,982										
※ 直接事業費+人件費	253,439	402,427				257,473	測量及び試験費	千円	21694	2928	1200	2928				
主な実施主体	直接実施、NEXCO西日本		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)		委託料(NEXCO委託:スマートIC調査設計等・工事)											
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					31 年度	428,168	32 年度	0	33 年度	0	34 年度	0	35 年度	0	5年間の合計	428,168
					30 年度		31 年度		32 年度		33 年度		34 年度		35 年度	
成果指標	指標	事業進捗率 (%) = 執行済事業費(直接事業費) / 推計総事業費(直接事業費)				単位	%	区分年度	29 年度	30 年度	- 年度	目標	31 年度			
	指標設定の考え方	推計総事業費に対する執行率により事業進捗状況を計る。推計総事業費: 1,212百万円【令和元年5月時点推計】				⇒	目標	50	69		100					
	指標で表せない効果	スマートICを設置し高速道路の利用を可能にすることで、救助活動及び救援物資輸送ルート等災害時の多重性を確保するとともに、救急医療機関への搬送時間の短縮による救命率の向上が図られる。これらの効果は定質的には表すことができるものの、定量的には図れない。なお、事業費に占める割合が大きい工事費の未執行時点では、事業進捗率が低く示される。また、事業進捗に伴い、総事業費が変動していくため、各年度毎時点での執行率の推移に変動が生じる。					実績	38	54							

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		平成31年度供用を目標に事業を進めているが、これまでの懸念事項であったNEXCO発注工事の残土搬出場所が確定し、かつ、地元車両の通行止めが発生する高速道路BOX延伸工事も順調に進むなど工事進捗に一定の目途がたった。									
事務事業評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業成果・工夫した点	次年度供用に向け、市道工事は土工は概ね完成し舗装等の工事を残すのみとなった。NEXCOへ委託しているスマートIC区間も順調に工事を実施し、舗装工の業者決定が行われるなど進捗に一定の目途が立っている。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	3					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	4					
		有効性	事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	4					
			成果向上の可能性	5 4 3 2 1	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	3					
			施策への貢献度	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。	3					
	効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	3						
		コスト効率	5 4 3 2 1	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	3						
		市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	3						
	一次判定 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5 4 3 2 1	施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。 概ね、施策の目的に沿った事業である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業継続と判断する。</li> <li><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する</li> <li><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する</li> </ul> (判断の理由) 令和元年度末、供用開始を目指しているもので、事業継続とする。	
			社会情勢等への対応	5 4 3 2 1	この事業では施策の目的を果たすことができない。 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。	4					
			市の関与の妥当性	5 4 3 2 1	社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。 市が積極的に関与・実施すべき事業である。 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。	4					
有効性		事業の効果	5 4 3 2 1	市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。	4						
		成果向上の可能性	5 4 3 2 1	既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。	4						
		施策への貢献度	5 4 3 2 1	目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。 施策推進への貢献は多大である。 施策推進に向け、効果を認めることができる。	4						
効率性	手段の最適性	5 4 3 2 1	現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。	4							
	コスト効率	5 4 3 2 1	活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。	4							
	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。	4							
所属長の課題認識	効率性	市民(受益者)負担の適正	5 4 3 2 1	満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。	4	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	A	所 属 長 の 課 題 認 識	ネクスコと工程進捗について、蜜に協議を行い問題点を常に把握・共有し、遅れを生じさせることなく施工管理を行うこと。		

施策を踏まえた判断	二次判定	<input checked="" type="checkbox"/> 一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。 <small>今年度末の供用を目指しており、関係機関と連携して完成を目指す。          なお、工事完了後の事後調査を進め、工事で生じた損失について補償交渉を進めること。</small>	⇒	指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断する。		
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。		
		<input type="checkbox"/>		
		<input type="checkbox"/> 一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
		<input type="checkbox"/> 一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。		
<input type="checkbox"/> 既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。				

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容 <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>
------------	------	---

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断議	事業の方向性	コメント欄
	<input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する。	<div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/> 右記の点を見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を行う。	
<input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を行う。		